

## ▶ 入退院を繰り返しながら化学療法をうける

「しんどくないよ。大丈夫」

訴えが少なく、Nsコールで呼ぶことは少なかった。  
症状が出ても我慢していることがあった。



症状に合わせたケアを行う



相談・対応の提案

カンファレンスを行い  
全体へ申し送ることでケアの統一をはかる



- ▶ 提案しても断られる
- ▶ しんどそうで声をかけても返答がない時がある
- ▶ 表情からも機嫌の悪さがうかがえる
- ▶ 威圧的な態度で医療行為に対しての要望がある

今は距離を置くべきなのか迷っていた  
何が正解か分からない…  
あまり関わりたくないという苦手意識

無理に声はかけず、話せるタイミングで思いを傾聴した  
こうした行動をとる背景を理解するようにした

本人と距離感を置きながら接した  
見守る=看護 ということを学んだ

末期がんと告知された時近医のNsの一言で死のうと考えていたのをやめた。

「ここにきて周りのみんなが同じように治療しているのに明るい。

ここの病棟の明るさや雰囲気が好き、この病院、この病棟で治療をしようと決めた。

最期はこの病棟で過ごしたい。」



患者さんへ行った看護を振り返り、スタッフ間で患者さんや家族に対して抱いていた思い、ケアや関わり方、後悔した思いについて意見を出し今回の事例としてまとめた